

2025 年 4 月 14 日

HOWS 2025 年度前期の開催につきまして

HOWS（本郷文化フォーラム ワークススクール）
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-29-10
飯島ビル 1 階 小川町企画内 電話 080-0816-3450
E-mail=hows@dream.ocn.ne.jp
(担当：大村)

謹啓

参加者のみなさん、講師として協力してくださっているみなさま、
日頃より本郷文化フォーラムワークススクール（HOWS）の諸活動へのご友誼・
ご支援に感謝いたします。

4 月に入り、通常であれば 5 月より始まる HOWS「2025 年度前期講座」の案内のリーフレット等をお送りする時期なのですが、このたび、参加者や講師のみなさまにお知らせしなければならないことがあり、お手紙をお送りすることにいたしました。

HOWS 事務局では、先月末に終了した「2024 年度後期講座」と並行して、次年度の準備を進めようとしてきました。

しかし、先月までの講座の運営のなかで、HOWS 事務局の運営態勢が、活動の中軸で支えてきたメンバーの仕事・活動や健康状態の変化などもあって、実質、集団的な運営ができなくなっていることを確認せざるをえませんでした。

また、20 世紀末の野蛮な世界の出現をまえに、2000 年に結成した際の HOWS 本来の目的——次代の諸運動を担う若く前衛的な活動家層の形成——を果たす展望もなかなか見えておらず、25 年間の蓄積はあるものの、前途遼遠の状態です。

ただ、ますます危機深まる現代の状況に照らせば、こうした HOWS の課題がアクチュアルなものとなっているのもまた事実です。むしろ、達成されていないからこそ、単に休止するというわけにもいきません。

こうした問題を抱えるなかで、わたしたち HOWS 事務局は、はたしてこれまでどおり自転車操業的に HOWS の運動を続けていてよいのか、と自問し、その検討のなかで、現状のマイナス面を直視し、運動を抜本的に見直すべきだ、と考えるにいたりしました。

もちろん、展望の欠如したなかでの自転車操業という状態は、HOWS のみに現れているのではなく、昨今の運動状況にもひろく見られるものかもしれません。しかし、流れに抗おうと思えばこそ、わたしたちは、危機を深める時代状況にだけではなく、それに押し流されて停滞・衰退していく運動状況にも抗って、たえず運動を新しく再編・刷

新してゆかなければならないと思うのです。わたしたちに「敵」があるとすれば、まず何よりも、こうした停滞・衰退にそのまま甘んじてしまうみずからの運動の惰性的なあり方にこそあるはずです。

そこで、HOWS事務局では、5月より通常通りの形態・様式で「HOWS2025年度前期講座」を開催するのではなく、いったん立ち止まって、運動再生ないしは新しい運動形成の方途について議論を重ね、準備するための模索と試行錯誤をたく考えております。

そのため、講座活動については当面、頻度を縮小しての開催、もしくは形態を変えての開催、場合によっては一時休止を含めて話し合っています。

ただ、その場合にも、9月の1泊2日のセミナー、11月のロシア十月社会主義革命記念集会、来年3月の国際婦人デー集会は開催しつつ、月1、2回ほどの企画を設定する方向で検討を続けています。具体的なテーマにつきましては、「戦後80年」に関する講座、現代のテクノロジーの問題に関する講座などを予定しています。また、「世界の短編小説を読む」シリーズは継続して開催する予定です。

HOWSの活動に期待を寄せてくださり、また「HOWS2025年度前期」講座に通常どおりの参加をご検討いただいていたみなさまには、ご期待にそえず大変心苦しいのですが、如上の事情ゆえ、何卒ご諒解を賜りますようお願い申し上げます

また、協力いただいているみなさまとも、意見を交わし、議論していければとも考えております。わたしたちは、この期間を、これまでのHOWSの諸活動のなかで生まれた協働関係をいっそう発展させてゆくための契機にしたい、と考えています。

近年でも、さまざまな労働組合の活動家のあいだでの連携強化、文化・芸術関係の取り組みにおける若い世代の活躍など、HOWSの活動をとおして少なくない成果が生まれており、何よりもそうした成果をより民主的で強力な運動に発展させたいのです。

この間に、ひろく開かれた議論の場を設定する予定です。また集会などでお会いできた際、そして電話・メール・手紙等でみなさまのご意見を伺わせてもらいたいと考えております。

ウクライナ、パレスチナで戦争と血なまぐさい虐殺が続き、東アジアでも戦争の危機が現実化しているなかで、わたしたちの共同の取り組みを発展させていくことは重要であり、みなさまの積極的な議論と運動への参加を、心よりお願いいたします。

季節の移り変わる時期ですので、ご自愛ください。

敬白